

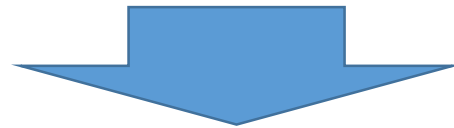
湖北地域の高度急性期・急性期医療を  
考える研究会 まとめ

## 説明内容

- 1 はじめに
- 2 湖北地域の高度急性期と急性期医療の現状と課題
- 3 市立長浜病院と長浜赤十字病院の現状と課題
- 4 今後の対応

○湖北地域の高度急性期・急性期医療は、市立長浜病院と長浜赤十字病院の連携協力、自己努力で確保してきた。

○医師不足による脆弱な診療体制を打開するため、両病院の連携協力を更に強化することが重要。



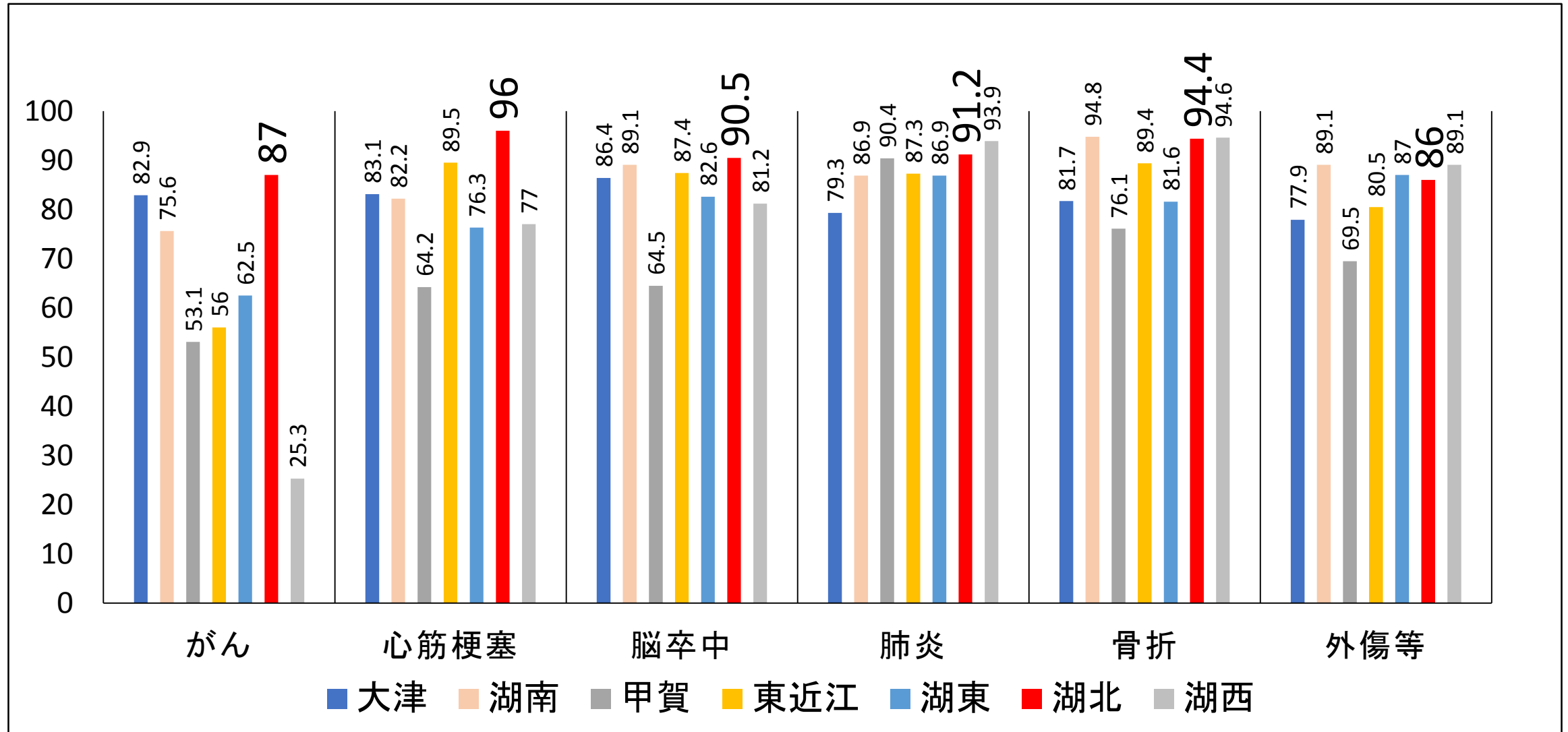
平成30年8月 第1回研究会開催

- 湖北地域の高度急性期及び急性期医療の現状と課題
- 2病院の現状と課題

について研究を開始し内容を取りまとめました。

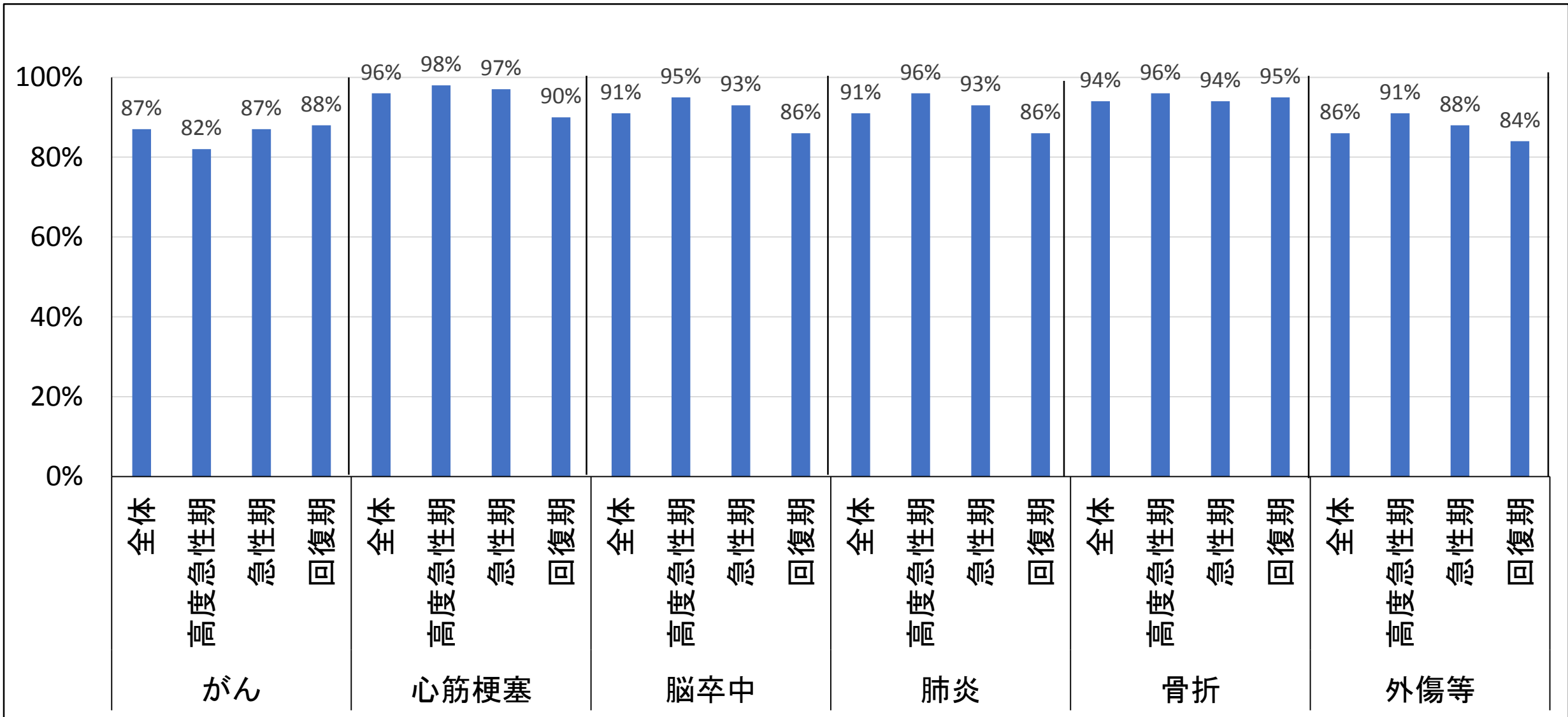
■ 構想区域ごとの区域内完結率

湖北区域は高い区域内完結率を保持しています。



## ■湖北区域内の主な疾患別完結率

どの医療機能でも高い完結率となっています。



市民が安心して医療を受けることができます。

出典：滋賀県地域医療構想

湖北区域の高度急性期・急性期医療の  
区域内完結率を維持し、質の高い医療を  
維持していくために

- ①高度医療の提供体制の維持と拡大
- ②医師の働く環境の整備
- ③専門医の確保
- ④地域包括ケアシステムの維持・発展、地域完結型  
医療の提供
- ⑤施設設備・医療機器の充実

これらの課題を解決する必要があります。

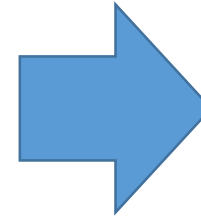
# ①高度医療の提供体制の維持と拡大

【報告書（案）2ページ参照】

○入院、外来ともに他圏域からの患者の受け入れがあります。

○当圏域内に三次医療を担う医療機関があり、区域を超えた医療を提供する役割を果たしています。

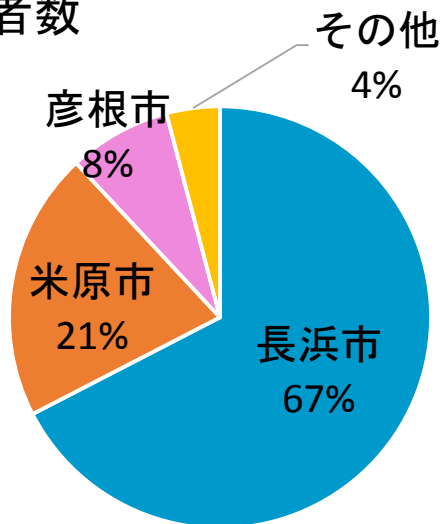
○長浜赤十字病院は、滋賀県の地域周産期母子医療センターとして位置づけられ、湖東地域からの患者の受け入れが続と見込まれます。



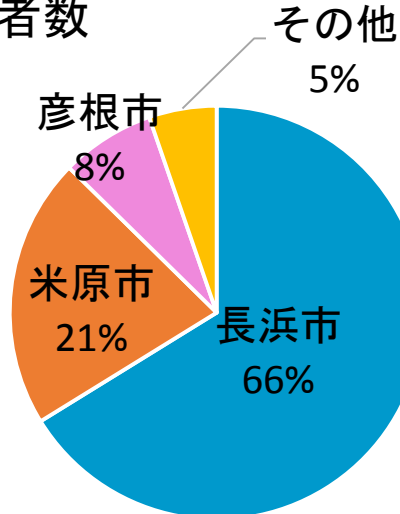
現在の医療水準を湖北で維持・拡大する必要があります。

■市立長浜病院と長浜赤十字病院の患者分布状況(H30.2月)

外来患者数



入院患者数



出典：市立長浜病院/長浜赤十字病院データ

## ②医師の働く環境の整備

【報告書（案）4ページ参照】

平成28年度の湖北圏域の人口10万人対医師数は、他圏域と比較しても、遜色はありません。

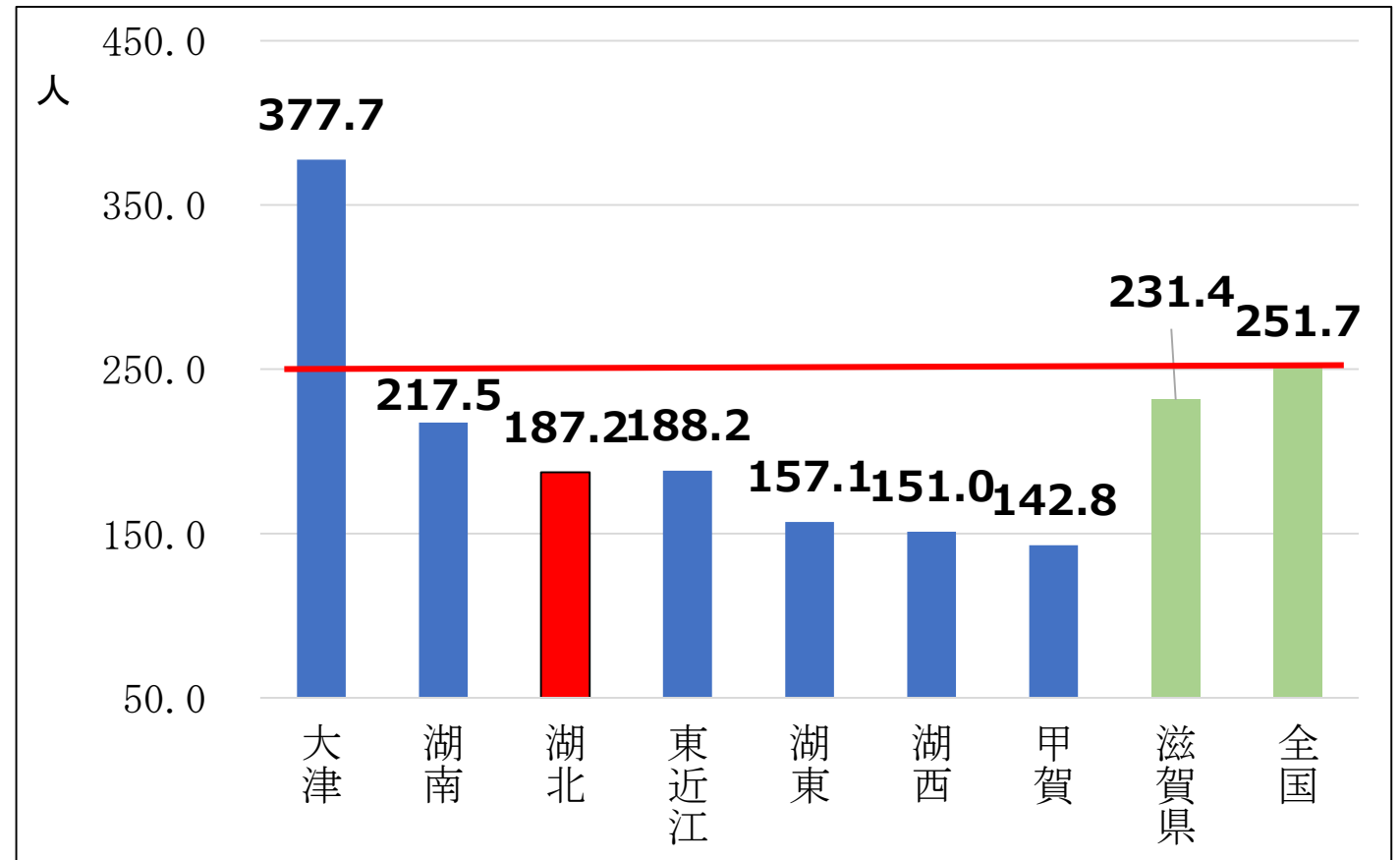
湖北圏域の医師も、当直業務や様々な病院運営に携わりながら、入院診療や外来診療を行っています。

医師の個々人の努力と自己犠牲により高度急性期・急性期医療が維持されています。



医師の働き方改革やチーム医療の実現に向けての取り組みを踏まえて、医師の働く環境を整備する必要があります。

■滋賀県内医療圏域別 医療施設に従事する人口10万人対医師数



出典：平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査



### ③専門医の確保

【報告書（案）5ページ参照】

- 市立長浜病院と長浜赤十字病院は、切磋琢磨して高度な医療水準を守ってきました。
- お互い足りない部分を補って湖北地域の高度急性期・急性期の医療を守っています。
- 医師への負担増大、医師の働き方改革の取り組みにより今まで守られてきた医療を将来堅持できるか危機感があります。

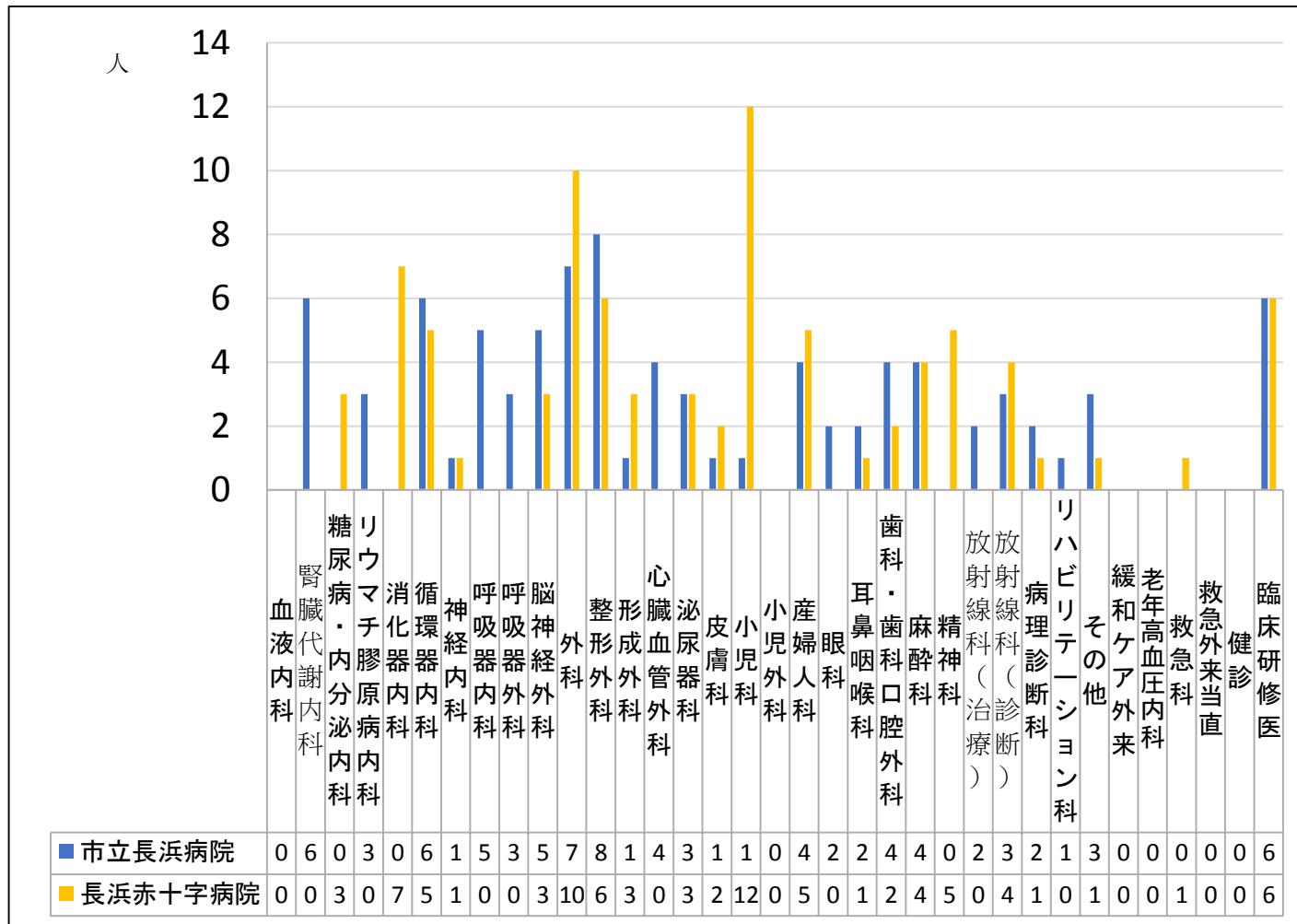


○両病院の医療提供体制をしっかりと維持するためには、医師の疲弊を防ぎ、専門医も確保することが必要です。

○両病院の連携協力により維持発展していく必要があります。

■市立長浜病院と長浜赤十字病院の診療科別常勤医師数

【H30.4.1現在】



出典：市立長浜病院/長浜赤十字病院データ

## ④地域包括ケアシステムの維持・発展、地域完結型医療の提供

【参照 報告書(案)4ページ】

○地域包括ケアシステムが、関係機関の強力な連携推進により湖北圏域内で浸透しています。

○病診連携や訪問診療、訪問看護が充実してきていることから、急性期を脱した患者さんが早い時点で自宅に戻れる仕組みが整ってきています。

○病床利用率、平均在院日数のいずれも全国、滋賀県と比較して短く、早く在宅復帰や次の施設への移行が行われています。



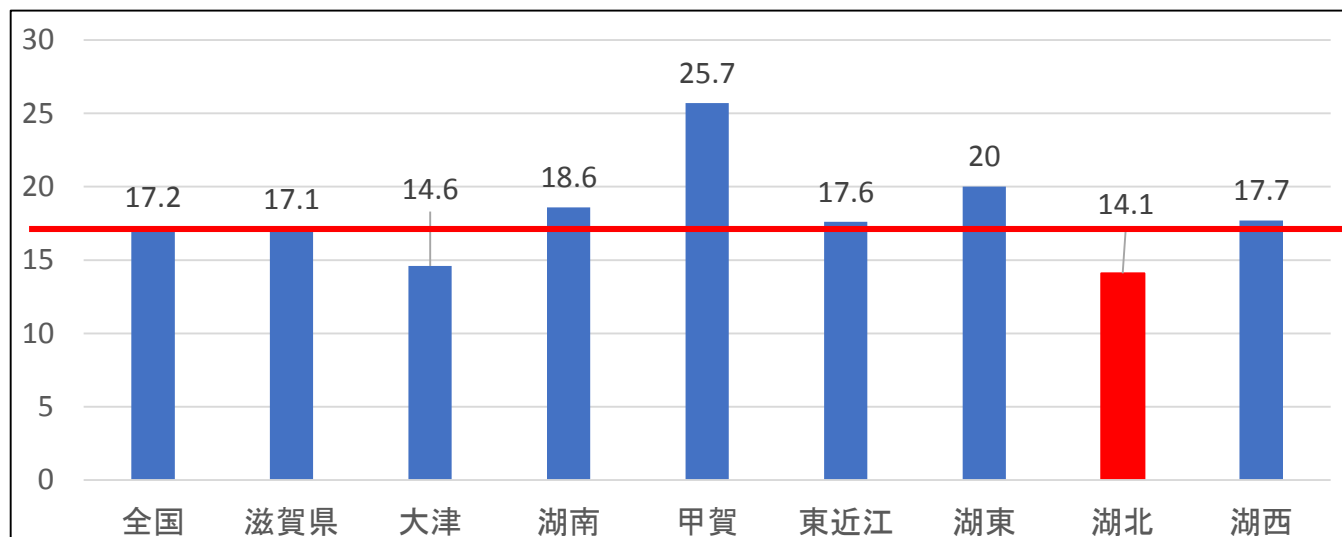
高度急性期、急性期、回復期、慢性期、在宅療養等に移行する患者さんや家族が、安心して退院できるよう、退院調整機能を強化する必要があります。

複数の疾患を持つ患者が増えており、病院内の各診療科のパイプ役となる総合診療医を配置する必要があります。

### ■病床利用率・平均在院日数

	病床利用率 (%)	平均在院日数(日)	
		一般病床	療養病床
全 国	81.0	75.5	89.9
滋 賀 県	79.4	75.5	90.6
<b>湖北地域</b>	67.6	<b>66.3</b>	<b>53.2</b>

### ■平均在院日数

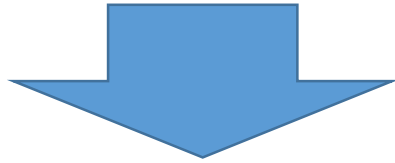


## ⑤施設設備・医療機器の充実

【報告書（案）8ページ参照】

市立長浜病院及び長浜赤十字病院ともに、本館建設から相当の年数が経過しています。

高額な機器を更新する時期を迎えます。



効果的に投資する必要があります。

項目	市立長浜病院			長浜赤十字病院		
開設日	昭和19年6月 (平成8年5月現在地に新築移転)			昭和7年4月		
敷地面積	70,991.23㎡			21,881,61㎡		
建築年次	本館	別館	診療支援棟	本館(西)	本館(東)	2号館
	H8年 (築22年)	H14年 (築16年)	H27年 (築3年)	H11年 (築19年)	H13年 (築17年)	H24年 (築6年)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート 地上7階	鉄筋コンクリート 地上3階	鉄骨 地上4階	鉄骨造 地上10階	鉄骨造 地上10階	鉄骨造 地上5階

医療機器			市立長浜病院	長浜赤十字病院
CT	マルチスライス	64列以上	2台	2台
		16列以上64列未満	2台	—
MRI	3T以上		1台	—
	1.5T以上3T未満		1台	2台
その他	血管連続撮影装置		3台	2台
	SPECT		1台	1台
	強度変調放射線治療器		1台	—
	内視鏡手術用支援機器(ダヴィンチ)		—	1台
	モバイル型デジタルイメージングシステム (ARCADIS Avantic)		1台	—
	放射線治療装置「リニアック」		1台	1台

### 3 市立長浜病院と長浜赤十字病院の現状と課題

【参照 報告書（案）9ページ】

#### 1) 総論

##### (1) 診療内容の変化

- 加齢に伴う病気が増え、診療内容が変化しています。
- 救急患者も複数の疾患を持つ患者が増えており、診察に迅速かつ慎重さが求められています。

## (2) 医師確保

- 医師個人の考え方が尊重されるようになり、大学から地方への医師派遣が困難になっています。
- 医師の働き方の見直しにより、一人医師派遣は敬遠され、複数名での派遣でないと大学も理解が得られない状況です。
- 多くの症例を経験できる病院であることが、大学の医師派遣協力を得るために重要となっています。

### 【湖北の医療の現場】

- 高度急性期、急性期医療における治療内容の変化への対応が求められている。
- 専門医の確保と、より専門化する医療にあって、複数の専門医をつなぐ総合医の育成が欠かせない。
- 病院勤務医がおかれている現状は、救急体制を中心に過剰な勤務時間の負担を余儀なくされ、少数の医師による高い倫理観と使命感に頼って運営されている。
- 医師を派遣する大学医局においては、医師の研修制度、症例数、医師数など研修環境や勤務環境をより重視する方向になっている。

- 高度急性期・急性期医療を、将来にわたり、市民が安心して医療を受けられる環境を整える観点から、切磋琢磨に加えお互いに補う合うこと、両病院の連携と協力がより重要になっている。

- 医療の確保は、市民が安心して暮らし、生涯現役で活躍できるまち、安心して年を重ねることができるまちを創ること。

- 両病院の医療提供の場は、合わせて2,000人が働く大企業であり、若者の雇用の場としても大きな役割を担っており、湖北地域の地方創生につながる。

### 【重点課題】

- 専門医の確保につながる両病院の具体的な方策の検討が必要。
- 湖北地域住民の医療への理解と協力を求め、市民のみなさんがかかりつけ医を持つことが地域の医療を守る、ということをも更に強く訴えることが必要。



## 【提 起】

市立長浜病院と長浜赤十字病院は、

- 両病院の主体的な連携と協力に取り組んでいただきたい。
- 特に、医師の確保については、喫緊の課題として具体的な方策の検討を進めていただき、市民の安心につながる積極的な発信を行っていただきたい。

長浜市は、

- 市民の安心につながることを踏まえ、両病院の連携と協力に関する取り組みを市民に公開する協議の場を整えていただきたい。
- 両病院の連携と協力が強化される取り組みに対しては、公的な制度の活用も含め必要な支援を検討されること。